

## 2 情報発信のあり方

### 緊急時やコロナ関連情報はSNSを利活用しプッシュ型広報を！

災害時等において公的な情報ニーズが急激に高まるために、公的機関ではそれに対応した情報発信が求められます。現在、**千葉県の情報提供はホームページを軸としておりますが、全国47都道府県庁の「オンライン広報」に関して格差があることが指摘されています。**

#### 水野ゆうきが指摘する千葉県の問題点

緊急時などアクセス集中時に情報閲覧を可能にするために**ホームページを災害版HPに切り替える**ことや速報性や拡散力の観点で最も影響があるツイッターの利活用が有効ですが、**緊急事態宣言が全国に拡大された4月時点ではホームページを災害版に切り替えているのは8府県にとどまり、千葉県を含む5県にはツイッターの広報公式アカウントすら開設されておりません。**

千葉県は広報公式アカウントを開設していないにも関わらず、**11月末時点で各担当部署毎になんと70ものSNSアカウントを開設。そのうち新型コロナウイルス感染症新規感染者数等の情報を発信しているアカウントはゼロ！アカウント数が多すぎて千葉県として今一番発信したいこと、県民に周知すべきことが見えにくくなっています。**

**水野質問** 緊急時などでも安定的に県ホームページを運用していくための取組とリニューアルによる改善内容は？

**千葉県答弁** アクセスが集中した場合でも障害が発生しないように文字情報中心にしたページに切り替える。緊急事案のレベルに応じて「緊急情報」が画面上に目立つようにページ構成を変更するシステムを整備し、機械翻訳機能により全てのページが8つの言語で閲覧可能にした。

**水野質問** 他都道府県や千葉県内の独自保健所設置市（千葉市など）では、首長や行政がSNSを利活用してコロナ関連情報を発信している一方で、千葉県はホームページのみ。SNSを活用し、プッシュ型の広報をすべきでは？

**千葉県答弁** SNSを活用した広報は、若い世代を中心に幅広い世代に効果があり、広報手段としても大変有効であると認識している。部局間で連携を図りながら効果的な情報発信が図られるよう努める。

## 3 自殺対策

### 若者と女性の自殺者急増、対策急務！

千葉県内の自殺者数は7月から10月は4か月連続で前年同月を上回り、この4か月の合計は過去5年で最多となりました。**令和2年1月から10月までの自殺者数は844人と深刻な状況です。**

特に顕著となっているのは**女性や若者の自殺者数が急増**していることです。厚生労働省によると**女性の20代と40代が去年の同じ時期より2倍以上**に増えています。千葉県においても若年層の死因に占める自殺の割合が高いことから、若者の自殺対策を進めていくことは重要です。

水野ゆうきは児童生徒と若者向けに県の自殺対策における相談窓口の周知・啓発方法の取り組みについて質疑を行い、SNSの広告活用と命の教育を疎かにすることないよう要望を行いました。

20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
35	89	101	140	148	128	114	89	844※

※…男性544人、女性300人

年度	小学校	中学校	高等学校	合計
平成28年度	0	2	6	8
平成29年度	1	6	6	13
平成30年度	0	8	14	22
令和元年度	1	3	9	13

#### 千葉県の対策

##### 知事部局

◆ 若者の利用が多いインターネット上の検索サイトにおいて自殺関連キーワードの用語検索（例：「死にたい」「自殺」等）を行うと検索結果の上位に相談窓口のリンク先が表示される「**検索連動型広告**」の取り組みを開始。今年度10月末現在では約50万4千件余りの広告表示があり、そのうち相談窓口等を案内した件数が約1万9千件。

##### 県教育委員会

◆ 新型コロナウイルス感染症に係る学校生活の変化や芸能人の相次ぐ自殺報道により児童生徒への影響が懸念されることから、繰り返し通知を发出し各学校に見守りの強化等を求めた。  
◆ SNSを活用した相談窓口を通年で開設（水野ゆうきの要望実現）。11月末現在、「心身の健康」、「友人関係」、「学業・進路」など全体での**べ3,297件の相談があり、そのうち「死にたい」などの訴えがあったものが95人からのべ250件あった。**

## 4 薬物乱用防止

### 未成年の大麻乱用増加を防げ！

覚せい剤とコカインの昨年の押収量が平成以降最多を記録したほか、大麻の所持などで検挙された人が6年連続で増加し、統計開始以降で最多の**4,570人**でした。このうち、**未成年を含む20代以下が半数以上を占めるなど、近年若者を中心に急増。**一方で事犯別にみると覚せい剤より大麻が増えてきています。その背景には大麻はネットを通じて他の薬物よりも入手しやすく、その及ぼす影響が過小評価され安易に使用している可能性があるとして分析・指摘されています。

#### 千葉県の現状

- 薬物事犯全体の検挙件数は800～900件台、検挙人員600～700人台と近年横ばいで推移
- 年々覚せい剤事犯の割合が減少し、大麻事犯の割合が増加
- 大麻事犯の年齢別検挙状況は令和元年の数値で20代が63人で最も多く、全体の43%。

#### ＜千葉県の少年の大麻事犯＞

本年11月末現在、薬物事犯で検挙した少年は24人。**既に昨年を超え、大麻による少年の検挙人員が年々増加。**未成年者に大麻の乱用が広がっている。



▶ 昨年度、我孫子市立根戸小学校にて

水野ゆうきは薬物乱用防止教室の認定講師として、所属する我孫子ライオンズクラブのメンバーとともに、これまで我孫子市内の小学校を中心に薬物乱用防止教室を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症により中止しています。

#### 水野ゆうきの要望

- 大麻急増は「ネット」と「若者」がキーワードになっている。自殺対策同様、薬物乱用に関してもSNSを活用した啓発活動も視野に入れるよう要望する。
- 児童生徒に対する薬物乱用防止の取組について子どもたちにはあらゆる機会を捉えて指導するよう要望する。

## 5 女性特有の疾病対策

### コロナ禍の受診控え対策を！早期発見・早期治療に遅れ

「女性特有の病気」は厚生労働省の調査によると、全国に129万6千人の患者がいます。さらに特徴的なのは若い20代・30代でも発症する確率が高いということです。

千葉県における女性特有のがんによる死亡数（令和元年）は、乳がんは735人、子宮がんは360人、卵巣がんは255人の、合わせて1,350人となっており、いずれも前年と比べて増加。

特に懸念されている子宮頸がんは、20～30代女性において、すべてのがんの中で罹患率1位。日本における検診の割合は40%台前半と低く、欧米諸国では70%～80%に上っており、日本の受診率の低さは際立っています。

#### 千葉県における女性特有のがんの罹患数 (※最新調査平成29年度)

- 乳がん…4,574人
- 子宮がん（頸がん・体がん含む）…1,373人
- 卵巣がん…624人

合計6,571人

#### 千葉県におけるがん検診の受診率の状況

- 乳がん検診の受診率は51.9%で全国平均と比較すると4.5ポイント高い（令和元年度）
- 子宮頸がん検診の受診率は41.8%で全国平均と比較しても1.9ポイント低い（令和元年度）
- 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い受診率が低下する見込み

**水野質問** がん検診受診率を向上させるための県の取組と新型コロナウイルス感染症の影響によるがん検診の受診控えに対する千葉県の対応は？

**千葉県答弁** 市町村の担当職員に向けた研修を実施し、効果的な受診勧奨や先進的な取組の事例紹介を行うとともに、市町村の保健推進員や食生活改善推進員等ががん検診推進員として育成。

今年度新たに、新成人に対し、がん検診の啓発リーフレットを作成し配布することとした。新型コロナウイルス感染症の感染を心配するあまり、がん検診を控えたり、がん検診を見送ることがないよう県ホームページを通じて呼びかける。

#### 水野ゆうきの情報提供体制及び広報に対する改善要望

「自殺対策」「薬物乱用防止」「女性特有の疾病対策」には若い世代、女性、ネットという特徴があります。広報や啓発、情報提供に関してはどの対象者に向けてアプローチするかで効果も全く異なります。内容に応じてしかるべき対象者に届くよう、あらゆるツールを駆使して多くの県民に情報がタイムリーに的確に行き渡るよう要望しました。

